

2022（令和4）年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2023年6月
洗足うさぎ幼稚園

1. 本園の教育目標

「自分で考えて、自分で行動できる」ようになること

2. 重点目標

感染対策をしながら、一人一人の幼児を大切にしたい質の高い教育の実践

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 教育環境 コロナウィルス感染症も今年で3年目となり、できる限り幼稚園での楽しい思い出が残るように対策を実施し、実行する。	B	少しずつ行事開催が戻り、工夫をしながら取り組めた。（秋の日保育育、お楽しみ会など） 制約がある中での活動のため、十分とは言えなかった
(2) 教育環境 朝の自由遊びの時間に、園庭の環境設定を工夫し、子ども達の自分たちの好きな遊びを選んで発展させられるようにすること	C	「遊び担当」のみならず、他の教員も一緒に全体の遊びについて、考える必要があった。朝の「自由遊び」を見直す意識付けはできたため、来年度以降工夫を続けたい。 子どもがやりたいという思いをくみ取れていないことがある。
(3) 特別支援教育 子どものありのままの姿を受け入れ、子どもそして家庭に対しても、一人一人に合ったサポートを柔軟に行うこと	C	個々に応じた指導を行う必要があっても、全体のクラスの流れの中でできない場合は、補助教員のサポートで進める場合が多いので、外部の専門の先生方のアドバイスを担当の教員だけでなく、全体での情報共有をする必要があった。
(4) 教育環境 英語や水泳など、園の教員以外の講師から指導を受けることで、興味関心を広げること	B	英語や、スイミングは上達が感じられ、子ども達が楽しんでいった。

評価（A 十分に成果があった。 B 成果があった。 C 少し成果があった。 D 成果がなかった）

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
C	コロナウィルス感染流行の状況で多くあったが、ガイドラインを遵守しながらも、もう少し工夫できる余地があったように思われる。 個々の仕事に追われてしまう面もあったため、園全体で考え、意見を出し合い共通の意識のもと保育を実施する必要がある。職員会議等で情報を共有しながら改善していく必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育環境	危険な箇所を発見した際は、速やかに対応を施す。 一方で、一時的な対策で解決できないものに関しては、園として修繕を行っていく。遊びの工夫を職員全体で工夫を続ける。
適正な生活指導	言葉の乱れを「いまどき」と流さず、教育機関として正しい「言葉」を伝えていかれるよう、場面をとらえ指導を行っていく。
保護者に対しての適切な情報提供	ホームページを適宜更新し、子ども達の園内での様子を積極的に発信していく。参観の機会を増やし、実際の保育の様子、子ども達の様子などを見てもらえるようにする
園児募集	子育て支援の園庭開放、「こうさぎルーム」や「みつばち広場」を有効に活用し、園児募集につながる働き掛けを行う。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・園庭での朝の遊びの工夫や、日々の保育の様子が保護者に伝わらない部分があるので、HP のタイムリーな発信をする必要がある。
- ・コロナ渦で大変な中、保育内容を考え工夫して行っているという意見があった。
- ・色々な経験をさせたいために、習い事をしている家庭が多いため、課外活動が増えたことは良い取り組みだと思う。